

【会議次第】

1. 山内町長挨拶

11月末の高知視察は大変有意義で、得るものが多くあったと聞いている。学習センターが設立され、その絡みの中で現実に成績等において数字も出てきている。また、新学期に向けて島前高校に來たいという島外の中学3年生及びその家族も増えてきている。魅力化に向けたそれぞれの取り組みから、徐々に結果が出ている。本会では今年度を振り返り、今後の方針を検討したい。

2. 山根校長挨拶

- ・ 日ごろ皆様には島前高校の魅力化のためご支援いただき、感謝している。
- ・ 早いもので本年度も3分の2が経過した。島外から入学してきた7名の生徒も元気に登校している。しかし、学習面や生活面ではもう少々努力が必要と感じている。2年目には、学習面や部活動等でさらに意欲的な生徒に応募いただけるよう、計画を改善していきたい。本年も県外から中学3年生が来校し、説明を行った。人数も出ており、昨年度よりも多くの入学者が期待できそうだ。
- ・ 校内行事としては、10月に1年生の韓国修学旅行があり、ソウル市内を中心に活動した。韓国のキョンイル高校との交流も行い、大変有意義であった。修学旅行の前段階から市民的な交流を図るという狙いで準備を行えたことも、有意義な体験に結びついたと思っている。
- ・ 本校に対し、魅力化の会より多額の補助をいただいた。大変感謝している。
- ・ 11月末から12月初旬にかけて高知視察へ同行させていただいた。魅力化の会から3名参加し、推進協議会からも参加があった。後ほど報告があるが、収穫の多い視察であった。私は途中から学校を休んでいた徳島の生徒先を訪問し、状況把握を行うことができた。
- ・ 今年度のこれ以降の予定として、昨年に引き続き3月末にヒトツナギツアーが予定されている。
- ・ 来年度に島外から入学する生徒の身元引受人の募集を行っており、推進協議会でも説明させていただいたが、早速ご協力いただけるという方もいらっしやった。
- ・ 部活動についてだが、レスリング部が今度中国大会に参加する。ソフトテニス部は新人戦で第三位となり、インドア選手権に参加する予定になっている。
- ・ 学習面では、現在3年生26名中、15名の進路が内定している。大学が3名、専門学校が11名、就職が1名がその内訳となっている。一月にはセンター試験があり、8名が受験勉強に励んでいる。2年生は少し中だるみといった状況だ。模試の成績を見てみると、7月の模試では34名中5名の生徒が全国偏差値50以上であった。しかし、11月の模試では偏差値60以上が1名いたものの、偏差値50台も一名に留まっている。一方、一年生は偏差値50以上が3名、50に近い生徒が3名という状況だ。
- ・ 3月に4回目の魅力化の会が予定されているが、ぜひ本校の授業を見学し、生徒たちの実態を見ていただきたいと考えている。

3. 議事

○島前高校魅力化 進捗状況・今後の予定(事務局)

資料の大項目から順に説明。※別冊参照

カリキュラム

一年生を対象に夢探究の授業を行っている。島内から外部講師を呼んだ外、島外から「(株)いろどり」社長や社会起業などを研究している九州大学の先生が来島された。ノーベル平和賞を受賞されたムハマド・ユヌス氏からもメッセージをいただき、それを元に生徒同士で議論をした。

地域創造コース

来年度に向けて、特に地域学及び生活ビジネス基礎の内容づくりを進めていく。地域学には、島内講師として地域の達人を呼びたい。

学力向上、キャリア教育

学習センターでは現在2年生を対象に「学習意欲向上授業」というキャリア教育の授業を行っており、生徒は積極的に取り組んでいる。自分の将来について考えたり、実際に話を聞きに行ったりということも意欲的にしている。西ノ島から通う生徒もいるが、基本的に3年生は11時、2年生は10時まで勉強している。夕食をパンなどで済ます生徒が多く健康上良くないという判断もあり、現在まかないを試験的に運用している。対外的な活動としては、島前3島内にて保護者向け説明会を行った。PRの効果からか、問い合わせが増えてきている。一方、特に中学3年生の保護者から「島外からの入学者が増えることで島前高校の入試で落ちる生徒も出てくるのでは」という不安も出てきている。今年度、また来年度以降も中学3年生向けに何らかの支援ができないかを検討している。

中学生向け説明会及び見学会

チラシや学校案内を作成し、配布している。また、昨年度のヒトツナギツアーの様子を撮影したDVDも完成し、すでに高校のホームページに掲載している。今後、来年度以降のポスターの充実を図っていきたい。

島外PR

OB・OG会にもチラシ等を配布するようにしたい。また、ふるさと納税の資料発送時にも、島前高校の資料添付など検討したい。マスコミによる報道も徐々に増えてきているが、間違った情報発信がなされ、こちらが求めている生徒像に合致しない生徒が来てしまわないよう注意したい。そのためにルールを整備し、記者やマスコミに渡すようにしたい。県外からの入学申し込みも増えてきている。県外出身生徒の身元引受人（里親）の仕組みを整備していきたい。

教員数

現状維持できれば、定員40名に対し、40名近く入学者が集まりそうだ。今年の中学3年生は島前全体で61名おり、2クラスとなることで教員数を増員できるため、2クラスに戻せないか県に打診したい。非常勤だった家庭科教員についても、家庭科教育コーディネーターの採用を進めている。今年国の緊急雇用からも事務スタッフを採用している。来年度のスタッフの確保も今後の検討が必要だ。

寮

寮生には高校だけでなく、地域行事も紹介し、参加を促したいという声が出ている。寮生が島前を知ることができるツアーなど検討したい。閉寮期間中の寮生の島内ホームステイ先の候補を探したい。

交流促進

長期休業等を利用して、短期留学やスタディツアーの補助も検討を進めていきたい。

部活動

地域国際交流部が現在今年度末に予定されている第二回ヒトツナギツアーの計画・準備を行っている。

地域との連携

高知視察があった。後ほど報告がある。また島前高校の教職員を対象に魅力化に関するアンケートを実施している。抵抗感や不安を受け止め、今後の改善につなげていきたい。

予算等について

過疎自立支援の運営費について、現在報告中だ。また今年度の内航船の補助と、人財育成支援基金拡大の検討をしたい。

○質疑応答

・内航船補助や人財育成支援基金の充実についてはまた別の機会で提案があるのか
→今のところ具体的に検討できていないため、まとめた上で改めて提案したい。

○高知県視察について(事務局)

魅力化の会、推進協議会、議員の皆様総勢 17 名が参加された。28 日に移動し、29 日には大方高校を視察した。大方高校は当時商業高校であったが、生徒の素行が悪く、地域からの信頼が薄かった。そこで地域と一体になって高校の改善がはじまり、県教委から校長が派遣された。現在は昼間部、夜間部、通信制という構成になっており、単位制を導入し生徒が柔軟に学習できる体制を作っている。

30 日は土佐町の小中学校を訪問した。知夫小のように、小中が併設となっている。町全体で読書を中心としたまちづくりを掲げており、木造の美しい校舎が印象的であった。午後は嶺北高校を視察した。中高同居型連携高校として、高校の施設の中にはじめて中学校の施設を同居させた。4、5 年前までは島前高校と同規模で、現在は 2 クラスとなっている。高知県は 1 クラスで統廃合と島根県よりも条件が厳しい。ここで中高の同居や土佐町との連携等施策について確認した。感想は多数あるため、後ほど資料にてご確認いただきたい。

中村議長

印象に残ったのは、地域の連携の強さ。土佐小中学校が学校を強く応援している。地域のおばあさんが生徒と一緒に授業を受けていると知り驚いたが、子どもたちも楽しんでいるようだった。地域と学校と一緒に頑張っているのは非常にいいこと。

仲吉議長

大変有意義な視察であった。校長や教育長の話を聞き、新しいタイプの学校づくりを感じている。小さな学校が大きな挑戦をしている。教育目標が明確で新しいタイプだと感じた。海士町の I ターンの方とも教育について語ることでできる機会となり、リフレッシュした。私は専門家ではなく、中山間地域の学校の歴史の比較、離島と僻地の高校の比較をするという視点で参加した。大方高校は島前高校と歴史が類似しており、離島と山間地であることから同様の境遇とも言える。お互い、国内経済や社会変動からの結果として今の状況がある。大方高校の計画は平成 15 年から検討されており、ちょうど合併町村協議会と同様のタイミングだ。大方高校も少子化により統廃合の対象となりうる状況だが、いいところだけ学び、検討していきたい。また、大方高校は日商簿記の取得を励行しているという。海士町もそろばんで伝統のある町だから、積極的に取り入れてみてはどうか。

・松原教育長

大方高校再編時の校長の話を聞き、島前高校の魅力化構想は「県立高校」であるということから限界を感じている。校長も教職員も県の管轄であり、必ず異動するが、この問題を突破する必要がある。そこで、法律的縛りが少ない学習センターの拡充が有意義となるのではないかな。

・川田教育長

ユニークな名刺が印象に残っている。教育長のまちづくりに対する熱い思いが伝わった。この視察を経て残念に思ったことは、島前 3 町村の統合教育委員会が解散してしまったこと。島前 3 町村から通う高校には、一つの連合教育委員会のような組織が大事ではないか。仕事がやりやすい事務局の整備が必要だと感じた。

嶺北高校は平成 16 年に中高一貫の指定を受け、県教委の指令によって中高の交流を行っている。議会が委員会を設置して過疎化、少子化の対策を行っている。島前も地域、学校、都道府県が一丸となって国へ提言するべきだ。離島振興法は平成 24 年度までだが、これに準拠して国が事業を行うべき。島民が負担するものではない。

徳田議長

どこの学校でも生徒数に困っていると感じた。と同時に、地域を取り込んだやり方があることを感じた。地域の理解を取り入れるのは難しさがあるが、よくやっているという感想を持った。驚いた点としては、おばあさんが生徒と一緒に勉強しているところ。先生も、おばあさんと一緒に勉強していると、孫と同様の子どもたちがやる気を出す、と話していた。

島前 3 町村の小中学校が存続するためには、3 町村、地域、保護者との連携が必要だ。小中一貫制、中高一貫制に移行する流れが適切なのではないだろうか。また、今回のような視察には各教育長も連れて行くべきだと感じた。

山根校長

大方高校の視察のみ参加した。大方高校は単位制、多部制であるが、生徒減少や生徒自身の素行の悪さから改革に至っている。多部制の難点として、生徒の掌握が非常に難しいことが挙げられる。生徒は好きなきに来て好きなきに帰るので、生徒と教師の関係性が希薄になりがちだ。また教師自身もどこまで立ち入っていかというところで苦慮している。松原先生も3年でうまく滑り出すことに成功したが、今は問題が出始めている。

一番のポイントは、協議会による地域の強い協力支援。一般住民が要望を提案し、学校が取捨選択をして取り組んでいる。校長は、「最初に赴任したときに『圧力団体か』と思うほど意見が出ていた」と話していた。これからの教育は学校だけでは成り立たない。学校の独自性を守りながら、地域との連携協力を図っていかなければならない。

推進協議会をどのように発展させるか。学校運営協議会ではなく、それに代わるものになりうると感じている。学校評議会と推進協議会を改善すれば、継続性や活性化の効果が狙えると感じた。

○質疑応答

- ・教育長はメンバーに入っていなかったか
→スケジュールの調整がつかなかった。
- ・山内会長

地域が子どもを育てていくという機運がないと、高校だけでは難しい。一年生は島外から7名入学した。問題児でもとればいいというものではなかったが、学校現場にも苦勞をかける結果となった。「どうしても島前高校にやりたい」という親もいることは十分に理解できる。非行などという問題ではなく、精神的な問題であり、テストや面接ではなかなか選抜できない。親という立場になって考えてみるとなんとかしてやりたいと思うが、このジレンマの中でどうしていくかという議論が今後出てくるのではないか。みんなをどうするかということももちろん大事だが、「この子の人生をどうするか」という姿勢が教育の基本ではないか。

「島前高校は試験を受ければ受かる」、という中学生や保護者の意識を変える必要がある。かつても定員オーバーで落ちた例も幾つか知っている。危機感や緊張感も持たせる必要がある。中高の連携が必要だ。最近の親御さんの中には他人のせいにしたがる無責任な人もいる。「島外から生徒が入ってこなければ、うちの子も…」と思わせないために、子どもに頑張ってもらいたい。そのためのサポートも必要だ。

○推進協議会 (12/14) 会議報告

- ・推進協議会からの意見の流れについて

情報共有会の場で校長、教頭、事務局で検討し、取捨選択 → 職員会議 → 魅力化の会 → 推進協議会という流れ。

○ヒトツナギ

企画、運営が高校生の有志から今年度は地域国際交流部へ。昨年度と同様に、3月末に開催予定。

○身元引受人

県外に保護者が居住する場合、受験するには身元引受人が必要である。推薦では、出席良好で意欲があり、学力、部活動等の成績が求められる。引受人を世話していただけるよう依頼したところ、西ノ島の方から「よろしいです」との返答があり、すでに何名かお話を頂いている。

その役割としては、閉寮期間中の部活動の練習参加時などの世話などが主であり、年間日数としては少ない。身元引受人、保護者、生徒が顔も知らない、ということのないよう、入学式等で顔合わせできるように検討している。身元引受人は引き続き募集している。

○意見交換

A グループ

- ・この取り組みに対して保護者からの理解が得られていないのではないか。中学生には説明をしているが、その保護者にも説明をする必要がある。
- ・学習センターを使うことで、うまく説明することができないか。

- ・あとど会をうまく活用することはできないか自分の母校を大事にし、宣伝してもらいたい。
- ・保護者は進学に不安があるということなので、子どもたちには説明しているが、中学で400点程度取れていても松江の進学校ではあまり面倒を見てもらえないというようなことも含めて説明する必要がある。
- ・学習センターに寮生が通えないという問題があるが、寮を使って学習センターを運営すればよいのではないか。

B グループ

- ・特別支援の必要な生徒については、家から通えない生徒がいる状況がある中で分教室なのか、支援学級なのか、検討する必要があるのではないか。島前の生徒が支援が必要でも通える状況を作ることを考えるべき。
- ・島前地域の中学生に関して、高校の見学や説明会は効果があると聞くので、継続するべき。中学校3年の担任などが高校のことをしっかり知って、ちゃんと説明できるように異業種交流など中学の先生に高校に来てもらうのが良いのでは。
- ・里親制度について、閉寮期間を学校の裁量で変えることはできないか。里親をおじいちゃん、おばあちゃんだけでなく、島前高生の保護者も島のお父さん、お母さんという形で広げることができないか。

C グループ

- ・PR 体制に関して、中学の体験入学の時期が遅かった。計画の充実が図られたほうがいい。
- ・中高一貫について、メリット・デメリットを考えながら、検討するべき。中高一貫で入りやすいが、卒業するのが難しい形がよいのではないか。
- ・学力向上は中高で共通の課題であり、中学生の学力が上がることで島前高に通わなくなるというジレンマもあるが、島前高の底上げをまずは考えるべき。

その他

- ・魅力化の会、推進協議会、議会、高校教員を含めた懇談・意見交換の総会のような場を持つことができれば、お互いに知らないという状況をなくすことができる。先生方に直接意見交換してもらいたい。また、現実の生徒の姿を見つつ、地域の声を教員に届けたい。時期は検討。